

## 平成28年度 消費生活講座参加者募集

市では、消費生活に関する情報や、被害にあわないポイントなどを学ぶ講座（全3回）を開催します。

- ・第1回 10月20日(木) 「消費生活センターってどんなところ？」
- ・第2回 11月15日(火) 「エンディングノートを書いてみよう  
～自分らしく生きるために～」
- ・第3回 12月13日(火) 「家庭の省エネ講座～学んで役立つ節約術～」

- ◆対象 = 市内在住の方で原則3日間受講可能な方
- ◆会場 = 市役所102会議室
- ◆時間 = 13時30分～15時
- ◆定員 = 先着30人
- ◆受講料 = 無料
- ◆申込方法 = 電話受付または生活課（2階）窓口にて
- ◆申込締切 = 9月30日(金)

お申し込み・お問い合わせは、生活課（2階）  
☎(20)1505、FAX(20)1600へ。



業（平成32年3月）をもって閉校とし、平成32年4月に富士見中学校に統合します。  
なお、選択制継続の可否判断は、平成24年に茂原市通学区域審議会から答申された次の判断基準に基づき、教育委員会が行います。

### 【判断基準】

西陵中学校が各学年複数級となった、または各学年複数級とならない場合でも顕著な増加傾向が継続して見込まれる状態にあるかどうか。

お問い合わせは、

学校教育課（9階）

☎(20)1558、FAX(20)1607へ。

# 市長が行く

産科SOS



茂原市長 田中豊彦



医療に関する問題については、再三このコラムで書いてきました。今回は、特に、産科について取り上げてみたいと思います。

茂原では、以前10あった産科が、今はたった2つになってしまいました。国は地方創生で地方に人口増加策を期待していますが、子供を産む場所が減ってきているような地方には若者は住み着きません。昔と違い、最近では出産時のリスクが高く、産婆さんだけではお産の対応が難しいことが多く、ますます産科の必要性が高まっています。検査も減少していることもかかわらず、大きな問題だと思っています。茂原の2つの産科の先生たちも、365日24時間休むこともできず、悲鳴を上げながらも、何とか対応していただいているのが現状です。

産科は、高齢出産が多くなってきたこともあり、ハイリスクで、訴訟のリスクも高く、しかもハードワークであり、なり手も少なくなってきました。

医療に関する問題についていると聞きます。まずは、ここを挙げてメスを入れていかなければなりません。そもそも、医師不足の問題は、産科だけではありません。千葉県は人口10万人あたりの医師数が183人で全国ワースト3です。さらに、県内の9つの医療圏のうち当医療圏（山武長生夷隅）の医師数は104人で、1位の京都市府（308人）の3分の1程度しかない医療過疎地域となっています。また、看護師や医療スタッフも同じような状況で、この状況を何度となく国や県に訴えても、一向に改善されてきていません。検討委員会も何回も開きましたが、現実的な結論に至らず、焦りを感じています。

平成16年に医療制度が大きく変わり、千葉県のような人口（600万人）の割に医療大学がひとつ（千葉大）しかないような県では、細分化された医療体系を維持することが出来ないうえ、また千葉大出身者の県内従事者数が減ってきたことも、大きな問題で

あると思います。次代を担う命の誕生にかかわる大切な産科を、それではどうやって増やし、確保していくか？大事なものは、リスクを減らすことと、メリットを増やすこと。一人にリスクを負わせないリスク分担の方法を考え、ハードワークをなくしていくこと。なおかつ、たとえば産科の出産育児一時金を大きく増やすことなども検討するに値することと考えます。

多くの産科の先生は、赤ちゃんを取り上げることに、使命感を持って、働いてもらいました。しかし、ハードワークが、自らの生活をむしろ減らしてしまうことは良いことではありません。制度を変えることは、国に訴えなくてはできないことですので、ぜひとも国会議員の方に頑張っていた

ただ目前の問題として、応急措置的ではありますが、茂原独自の対策をいくつか検討してまいります。少しでも安心して子供を産んで育てられる市になるために。

国会議員の方に頑張っていた